2023 年 10 月 15 日（毎月 15 日発行）第 872 号　　1966 年（昭和 41 年）8 月 30 日第 3 種郵便物承認 ISSN 0915-6038

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ, KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ, KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951　N-ro 872 oktobro 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407, Moriwaki Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU
Sinhama-tyô 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063, Kosaka Kiyoyuki

ENHAVO

古都トリノでの世界エスペラント大会……伊藤 俊彦 1-2
楽しい作文教室（146）……塚本 猛 3
第 110 回日本エスペラント大会直前情報 …… 4
楽譜：牛若……文部省唱歌、島谷 剛 5
対訳: 源氏物語 第54帖 夢浮橋（4）……紫式部/belmonto 6-7
Kajero Libervola:Rakonto pri Veneno kaj Verko (2)
……Takemori Hirotosi 8
夢十夜（10）…… 夏目 漱石 / 沖 恵明 9
「婦唱夫随」の綿貫健一郎さん……渡辺 克義 10-11
追悼：木村英二さんの思い出……木元 靖浩 11
追悼：中道光子さんの思い出……木元 靖浩 12
Kultura heredaĵo: 花のいのちは（林芙美子）…… 12
La Movado: 枚方エスペラント会、愛知セミナーほか 13
Vortkruca enigmo / Kurantaj Vortoj……14
作文教室成績 …… 14
Mikspoto / 作文教室課題 /KLEG事務局だより …… 15
出版情報 …… 15
編集ノート …… 16

古都トリノでの世界エスペラント大会

伊藤 俊彦（愛知県）

はじめに

この夏、7 月 29 日から 8 月 5 日まで、第 108 回世界エスペラント大会がイタリア北西部の都市トリノで開催され、妻の順子とともに出席した。以下、大会の感想を思いつくままに書いてみたい。

大会は 7 月 29 日以前から始まっていた。昨年末に参加申込を行い、Dua Bulteno や Kongresa Libro がネットで公開されれば熟読し、ネットで大会遠足や晩さん会などを申し込み、参加費を支払った。しかし、高齢者にはネットで手続や情報収集するのはむずかしい。Telegram や Kongresa apo もインストールしたが、使いこなすには至らなかった。

私は長らくイタリアの都市や建築、美術に関心があり、定年の 1 年前に退職し、2012 年から 14 年にかけて 1 年半ほど、妻ともどもペルージャ外国人大学でイタリア語を学んだ。今回はパンデミックも一応収束し、久しぶりにイタリアに行けるようになったので、世界大会への参加を兼ねて 1 か月のイタリア旅行を計画した。7 月 10 日に出国し、ローマ、ペルージャを経て世界大会に出席し、ミラノ、ドバイを経て 8 月 11 日に帰国した。

大会都市トリノと大会会場について

トリノはイタリア王国の最初の首都（1861 ～ 1865 年）であり、碁盤目状の道路に沿ってバロック様式の建築が整然と並び、壮麗な王宮がある。文化的にも第二次世界大戦後のイタリア文学を代表するチェーザレ・パヴェーゼやイタロ・カルヴィーノなどの活動の拠点となった。

大会会場はトリノ工科大学。リスボンの世界大会でもリスボン大学が会場だったが、休暇中の大学を

Movada Foiro にて

歩くのは楽しい。階段教室に座って講演を聞いていると学生時代を思い出す。学生食堂（メンサ）も、ペルージャ外国人大学で毎日通った「学食」を思い出してなつかしかった。

開会式、閉会式、Nacia Vespero などはＯＧＲ（Officine Grandi Riparazioni di Torino）で行われた。ここはかつて電車の修理工場だった建物を大規模イベント用に改修（restauro）したもので、鉄の柱や梁や壁がむき出しになっていて、美しく洗練された建物である。開演前にはバールもオープンする。トリノにはまたリンゴットという巨大施設があって、フィアットの巨大工場をレンツォ・ピアノの案によりショッピングモール、ホテル、美術館などの一大文化商業施設に改造した施設である。ＯＧＲもリンゴット同様、イタリアにおける古いものと新しいものとの絶妙な調和の好例だと感じた。

大会に参加して ― とりとめのない感想

今回の大会では、７月 29 日に会場の中庭で行われた Movada Foiro で八ヶ岳エスペラント館、エスペラント大相撲のコーナーを担当し、２時間のあいだ炎天下を立ちどおしで説明に追われた。それ以外は気楽な一参加者として、あちこちの会場をのぞき、コンサートを聴き、一日遠足に参加した。

イタリアに関するプログラムでは、Prelegoj pri Italio という連続企画、イタリア語入門講座、プロのオペラ歌手やマジシャンなどが出演する Nacia Vespero などに出て、いずれも面白かった。

Kongresa temo はつまみ食いしただけだが、移民、難民の流入と彼らの社会的な統合は、日本でも顕在化しつつあるとはいえ、実際に当事者たちが自身の過酷な体験を話すのを聞いて、それがいかに切迫した問題であるか、エスペラントがそうした世界の現状といかに深く関わっているかを実感した（ロシアのウクライナ侵略についての番組があったが、私は気がつかなかった）。

コンサートにも足を運んだ。jOmO、Kajto、Mikaelo Bronŝtejn、Ĵomart kaj Nataŝa など常連の演奏には聴衆が会場を埋め尽くし、人気を伺わせた。jOmO のコンサートでは、彼の歌に合わせて若者から熟年世代までが踊り（私も加わったが）、会場は熱気に包まれた。

晩さん会は王宮の中庭で行われたが、歴史遺産が残るイタリアならではの企画であった。ただ、身も蓋もない話だが、参加費は 87 ユーロと高く、円安にあえぐ日本から参加した私たちには出費であった。

遠足について、とりとめのない感想を。バスの車中やお昼どきなどに、他の参加者と愉快な時間を過ごせた。また、大会スタッフが参加者たちに向かって、“Homoj!” と呼びかけるのも面白かった。イタリア人の現地ガイドがイタリア語で説明し、それを大会スタッフがエスペラントに訳して伝える。両方聞いても、中世から近代にかけての複雑なヨーロッパ史に通じていないので、細かい史実については理解できないことも多かった。

とくに、本のこと

日ごろエスペラントの本に接する機会の少ない者にとって、大会で現物に接するのは大いなる楽しみである。大会期間中、Libroservo に入り浸っては本を手に取り、15 冊ほど買い込んだ。また、aŭtora duonhoro ものぞいては、日ごろからその著作に親しんでいる Mikaelo Bronŝtejn、Carlo Minnaja ら著名人に加え、Laure Patas d'Illiers（SF 短編小説集 “Sur bluaj planedoj” の作者）などの話を聞いた。Libro de la jaro では、ESPERO、KAVA-PECH 始め意欲的な出版者の説明を聞けた。

さきに触れたが、トリノゆかりの文学者は多い。大会と時期を同じくして、チェーザレ・パヴェーゼの『美しい夏』、イタロ・カルヴィーノの『レ・コスミコミケ』『パロマー』のエスペラント訳がそろって刊行されたのは、トリノのエスペラント運動がトリノの文化的伝統との深いつながりを有することを示唆しているかのようである。

おわりに

日を重ねるごとに少しずつ知り合いが増えていく。イタリア在住中にローマやルッカで夕食を共にしたベテランのエスペランチストたちと元気に再会できた。また、日本で出会った人、わが家に宿泊した人とも再会できた。

まとまらぬことを書いてきたが、８日間にわたる巨大で複雑な世界大会のほんの一端に触れたにすぎない。終了後も大会は終わらない。むしろそれは始まりだろう。大会中に多くの見聞をしたが、そのときは、面白いとは感じたものの、よくわからぬことが多かった。帰国した今、あれは何だったのだろうかと振り返りながら、改めて勉強しなければと思っているところである。

☆ 楽しい作文教室（146）

塚本猛

①多数派は勝手に議場を変え編入を決議した。

【訳例1】La majoritato arbitre ŝanĝis la asembleejon kaj rezoluciis la aneksiĝon. (ヒー坊)

【訳例2】La plimulto arbitre kolektiĝis en alia loko, kaj rezoluciis, ke la vilaĝo estu aneksita. (yosie)

【訳例3】La plimulto rezoluciis la aneksiĝon, translokinte la kunvenejon en alian lokon. (Ivajo)

「多数派」は plimulto や majoritato、「議場」には kunvenejo（会合場所）が考えられます。

訳例1は「多数派」に majoritato を使い「議場」に asembleejo を使って、原文のように「議場を変え」と表現しています。

訳例2は「議場を変え」を「別の場所に集まり」として表現しています。「勝手に」は訳例1と同様 arbitra（随意の、勝手気ままな）で表現しています。この単語には arbitre elpensita（恣意的に発明された）という用例がありますね。

訳例3は分詞形容詞 translokinte（移して）を使い「別の場所に移して」と表現しています。

②そのような決議に反対派が従うはずはない。

【訳例1】Ne povos okazi, ke kontraŭuloj de la anekso obeas al tia rezolucio. (Lumo)

【訳例2】Ne povas okazi, ke opozicio akceptos tian rezolucion. (ヒー坊)

【訳例3】La opozicio nepre ne akceptos tian rezolucion. (CA)

「決議」は rezolucio（決議、議会等の公式な意見表明）が使えます。決議に従うという場合には akcepti ion（受け入れる）の使用が多いようです。

訳例1は「はずはない」に ne povi を使っています。ke 以降の「編入反対派がそんな決議に服従すること」が起こるはずはないという表現です。「従う」に使っている obei は辞書 PIV で他動詞とされていますが al を使う例も多いようです。

訳例2は同様の構文で「決議を受け入れるはずはない」という表現です。こちらは ke 節側に未来時制を使っています。

訳例3は nepre（必ず）を使い未来形で「きっと受け入れないだろう」と表現しています。

③村は意見を統一できず二分される事になった。

【訳例1】La vilaĝo ne povis unuigi opiniojn kaj estis dividita en du. (ikona)

【訳例2】La vilaĝo ne povis unuigi opiniojn kaj dividiĝis en du grupojn. (yosie)

【訳例3】Opinioj en la asembleo ne povis unuiĝi kaj estis dividitaj en du grupoj. (Lumo)

「意見を統一」ですが、opinio（意見）と unuigi（一つにする）の相性はあまり良くなく、意見は akcepti ion（受け入れる）や partopreni ion（ともにする）等を使うようです。統一を使わず atingi konsenton（合意に至る）も考えられます。

訳例1は「村」としての意見を統一できず「村（自治体）」が二分されたと言っています。この解釈が解答例の77％を占めました。訳例2は「村」が2グループに分かれた、訳例3は議会の意見が2グループに分かれたという解釈です。

④村の一部は市に編入され残りは町と合併した。

【訳例1】Parto de la vilaĝo estis aneksita al la urbo kaj la resta parto al la urbeto. (Lumo)

【訳例2】Unu parto de la vilaĝo aneksiĝis al la urbo, kaj la alia parto fuziis kun la urbeto. (ヒー坊)

【訳例3】Parto de la vilaĝo estis aneksita al la urbo kaj la resto estis kunfandita kun la urbeto. (Drako)

「編入」は組織や団体に後から組み入れること、「合併」は組織などが一つに合わさることです。対象が団体ですし enmatrikuligi iun（名簿に載せる）を使うのは無理があると思います。

訳例1は「編入」と「合併」に同じ esti aneks-ita を使っています。「合併」と結果はあまり違いませんが aneksi（併合）されると併合された側は消滅しますので嫌う人もいるでしょう。

訳例2と訳例3は「合併」に別の単語を使っています。訳例2の fuzii ion は fuzio（合併）の動詞形ですが用例は少ないようです。訳例3の estis kunfandita は kunfandiĝis の方がいいと思います。

なお aneksita（併合された、付加された）の場合は行為者が別かもしれませんし al を使った用例もあるのですが、受動文と考えられる場合の行為者は de で示すのが基本です。（成績は p.14　新しい課題は p.15）

10月21日（土）・22日（日）

第110回日本エスペラント大会（川崎市）直前情報

北川 郁子（神奈川県）

第110回日本エスペラント大会については、４つの無料一般公開番組を７月号でご案内しましたが、今回は直前情報をお届けいたします。

＜プログラム関連＞

（１）長年、世界各国でエスペラント講師として活躍されている Mireille Grosjean（ミレーユ・グロジャン）さんが来日。母国スイスについて講演します。

（２）新しい異文化間文芸コンクール Interkultura Novelo-Konkurso（ＩＮＫ）について、発起人の Stela Besenyei-Merger（ステラ・ベゼニェイ・メルゲル）さん（ハンガリー）のビデオメッセージの後、作家の間宮緑さんが最近のエスペラント界の文学創作に関わる分野について解説します。

（３）インドネシアの青年 Adam Damario Prakasa（アダム・ダマリオ・プラカサ）さんを大会に招待します。伝統の打楽器「アンクルン」について講演する予定です。

（４）会話教室

＊ Paroliga Sesio（初級者向け）スウェーデン出身の Fanjo（ファーニョ）さん、ベトナム出身の Midori（ミドリ）さんが参加者と楽しくおしゃべりをします。

＊ Paroliga Kurso（中級者向け）スイスから来日の Martine Moine（マルティーヌ・ムワン）さん、Sonia Daubercies（ソニア・ドブルシエ）さんが講師を務めます。

（５）近年話題となっているＬＧＢＴの問題をエスペラントとともに理解する。真の人権理解、多様性とはなにか？当事者であり、アナキズムやエスペラントの普及にたずさわる黒薔薇アリザさんが解説します。

（６）アドベンチャーゲーム「ことのはアムリラート」5周年にあたる今年、「ことのはレルナード」発売記念に関連するイベントが企画されています。

（７）「オンライン文化祭」新旧エスペランティストたちの思いがけないプレゼンが視聴できます。9月末まで参加を受け付けています。

＜第5回プレ企画は9月23日＞

１月よりオンラインで、さまざまなテーマでオンラインによる講演、自由討議を行ってきましたが、最終回は9月23日19時より、使用言語をエスペラントのみとして行います。テーマは大会テーマそのもので「エスペラントがいま夢見る世界は何か？」。申し込みはＪＥＩウェブサイトよりお願いいたします。エスペラントを話すことが苦手な方も聴くだけの参加も歓迎ですので、お気軽にご参加ください。

＜大会会場について＞

会場（複合施設サードアベニュー内の川崎市総合自治会館）は武蔵小杉駅至近距離にありますが、出口が複数あるため写真付きのわかりやすい案内をJEIウェブサイトに掲載します。関西から新幹線利用の場合は、新横浜駅下車がおすすめです。

＊参加申し込み締め切りは10月7日です。オンラインまたは実参加で多くのみなさまとお会いできることを楽しみにしています。（新情報は大会ウェブページ https://jek.jei.or.jp/ をご覧になってください）

vidis eksciis sentis

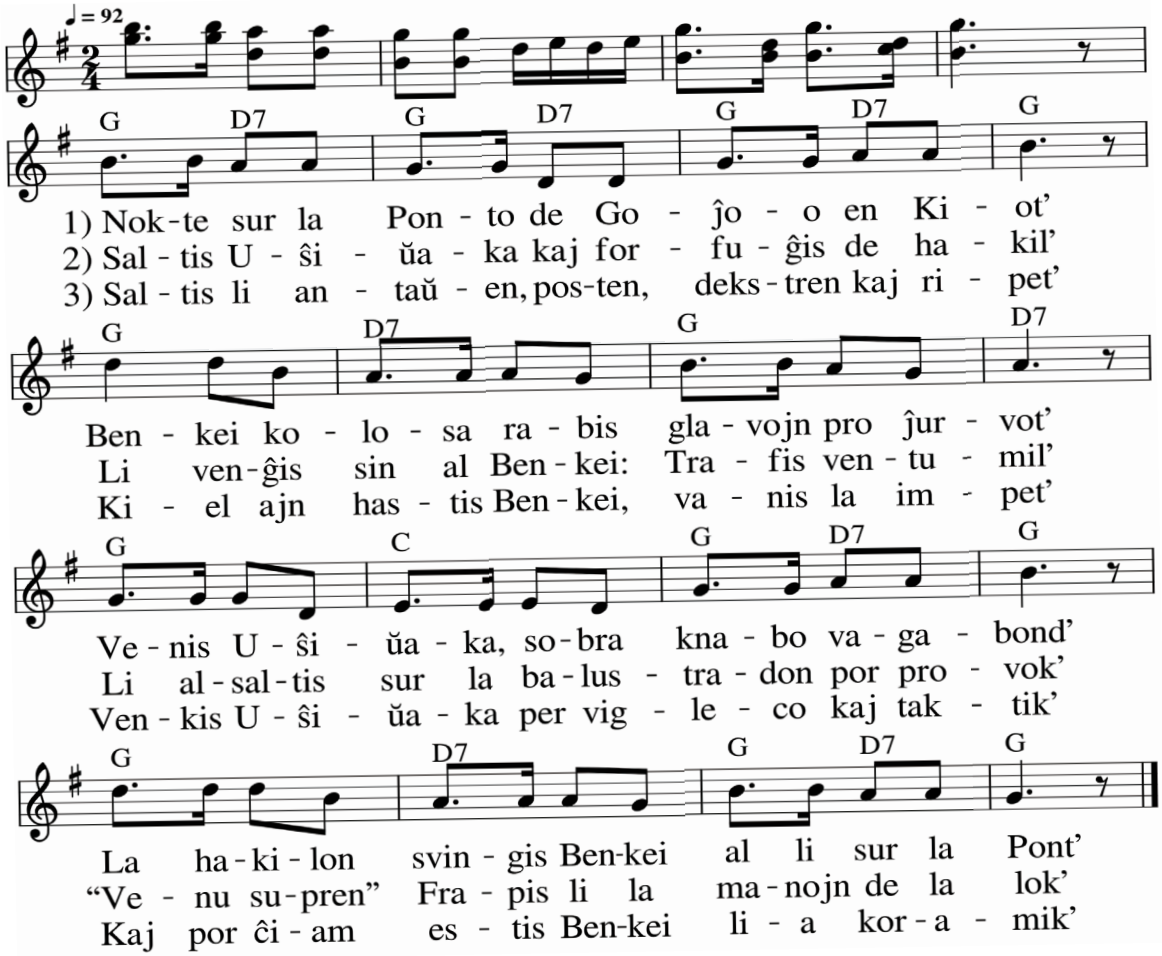
Statuo de Murasaki-Ŝikibu

Murasaki-Ŝikibu estas ĉambelanino, kiu vivis, onidire, 973 ~ 1031. Laborante en la tennoa palaco ŝi verkis ”Rakontaro Genĝi”, kiun vi povas legi en ĉi tiu gazeto. Ĉi tiu statuo troviĝas en la urbo Uĵi en la gubernio Kioto.

tenejo

Uŝiŭaka（牛若丸）

kanto el nacia lernolibro, trad. Simatani Takesi



牛若丸

文部省唱歌　作詞者・作曲者不詳

1) 京の五条の橋の上
大のおとこの弁慶（べんけい）は
長い薙刀（なぎなた）ふりあげて
牛若めがけて切りかかる

2) 牛若丸は飛び退（の）いて
持った扇を投げつけて
来い来い来いと欄干の
上へあがって手を叩く

3) 前やうしろや右左
ここと思えば　またあちら
燕のような早業（はやわざ）に
鬼の弁慶あやまった

五条大橋の牛若・弁慶像

Uŝiŭaka

kanto el nacia lernolibro, trad. Simatani Takesi

1) Nokte sur la Ponto de Goĵoo en Kiot'
Benkei kolosa rabis glavojn pro ĵur-vot'
Venis Uŝiŭaka, sobra knabo vagabond'
La hakilon svingis Benkei al li sur la Pont'

2) Saltis Uŝiŭaka kaj forfuĝis de hakil'
Li venĝis sin al Benkei: Trafis ventumil'
Li alsaltis sur la balustradon por provok'
"Venu supren" Frapis li la manojn de la lok'

3) Saltis li antaŭen, posten, dekstren kaj ripet'
Kiel ajn hastis Benkei, vanis la impet'
Venkis Uŝiŭaka per vigleco kaj taktik'
Kaj por ĉiam estis Benkei lia kor-amik'

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

54 La Flosponto en la Sonĝo – *Yume no Uki-Fasi* – (5)

源氏物語第 54 帖 夢浮橋 ゆめのうきはし (5)

eljapanigis belmonto

5. Flosboato trovas inkogniton

Flosboato vivis en la domo en *Vono*, por konsolo nur rigardante lampirojn sur la kortorivereto, kio rememorigis pasintajn tagojn, frontante al la montoj kun tre densaj verdaj arboj. Jen vidiĝis neordinaraj multaj torĉoj kun atentoplenaj heroldoj sub la antaŭtegmento, preter kiu la valo estis vaste vidata ĝis malproksimo. Ankaŭ monaĥinoj eliris de la ĉambro kaj sidiĝis por rigardi la scenon.

“Ho, kiu pasas tie? Kiom multaj heroldoj!”

“Kiam mi oferis sekigitajn marherbojn al la templo dum tago, tiea servisto redonis la respondon, dirante: ‘Ni ricevis vian donacon ĝustatempe! Ni nun preparas urĝan regalan manĝon pro la vizito de la *Dajŝaŭo*.’”

“Ĉu la *‘Dajŝaŭo’* signifas la edzon de la Dua Princino de la Mikado?”

Tia parolado montris ilian kamparan vivadon, malproksime de la kuranta socio. Jes, ĝuste tio.

Flosboato distingis tiun voĉon de la gvardia soldato portempe, kiun ŝi aŭdis antaŭe, kiam *Kavoru* vizitis ŝin ofte laŭ montovojoj. Ŝi korpremiĝis pensante, kial ŝi ne povas forgesi pasintan tempon, kvankam forfluis la tempo, sin distris en adorado al Amitabo, kaj restis sen vortoj. La vojo estis bone konata nur al rutinaj pasantoj al *Jokava*.

5

小野には、いと深く茂りたる青葉の山に向ひて、紛るることなく、遣水（やりみづ）の蛍ばかりを昔おぼゆる慰めにてながめゐたまへるに、例の、遙かに見やらるる谷の軒端（のきば）より、前駆（さき）心ことに追ひて、いと多うともしたる灯（ひ）ののどかならぬ光を見るとて、尼君たちも端（はし）に出でゐたり。

「誰（た）がおはするにかあらん。御前（ごぜん）などいと多くこそ見ゆれ」

「昼、あなたにひきぼし奉れたりつる返り事に、大将殿おはしまして、御饗（おほむあるじ）のことにはかにするを、いとよきをりなりとこそありつれ」

「大将殿とは、この女二の宮の御夫（をとこ）にやおはしつらん」

など言ふも、いとこの世遠く、田舎びにたりや。まことにさにやあらん、時々かかる山路（やまぢ）分けおはせし時、いとしるかりし随身（ずいじん）の声も、うちつけにまじりて聞こゆ。月日の過ぎゆくままに、昔のことのかく思ひ忘れぬも、今は何にすべきことぞと心憂ければ、阿弥陀仏（あみだほとけ）に思ひ紛らはして、いとどものも言はでゐたり。横川に通ふ人のみなむ、このわたりには近きたよりなりける。

6. Frateto ekscias pri Flosboato

Tiu sinjoro *Kavoru* pensis, ke li tuj sendos ĉi tiun knabon por mesaĝi, sed tiam ne estis oportune antaŭ la multaj ĉirkaŭantoj, kaj li

6

かの殿は、この子をやがてやらん、と思しけれど、人目多くて便（びん）なければ、殿に帰りたまひて、またの日、ことさらにぞ出だし立てたまふ。睦（む

revenis al sia domo. La sekvantan tagon li sendis lin kun firma penso. Li elektis du, tri zorgantojn ne atentokaptajn, kaj kunirigis la gvardian soldaton por eskorti, kiun li ofte sendis antaŭe kiel mesaĝisto. Li vokis la Frateton al si private, ne konate de aliuloj, kaj diris:

"Ĉu vi memoras la vizaĝon de via forpasinta pli aĝa fratino? Oni kredas, ke ŝi jam ne estas en ĉi tiu mondo, sed kredu, certe ŝi vivas! Vi iru kaj spionu, por ke aliuloj ne priatentu. Nepre ne sciigu al via patrino, aŭ ŝi multe bruos, kio sciigos la aferon klara eĉ al nekoncernatoj. Por tia kompatinda patrino mi zorgas tiel multe."

Li severe ordonis lin teni buŝon malfermi. Frateto antaŭe vidis Flosboaton plej bela el multaj fratinoj elstare, kaj tre malgojiĝis pri la anonco de ŝia morto. Nun li aŭdis ke ŝi estas viva, kaj larmoj falis de liaj okuloj pro la troa ĝojo, kion li sentis kiel honto, do li simple ripetis, premante emocion, "Ĥo, ĥo..."

つ）ましく思す人の、ことごとしからぬ二三人送りにて、昔も常に遣はしし随身添へたまへり。人聞かぬ間（ま）に呼び寄せたまひて、

「あこが亡（う）せにしいもうとの顔はおぼゆや。今は世に亡き人と思ひはてにしを、いとたしかにこそものしたまふなれ。うとき人には聞かせじと思ふを、行（い）きてたづねよ。母に、いまだしきに言ふな。なかなか驚き騒がむほどに知るまじき人も知りなむ。その親の御（み）思ひのいとほしさにこそ、かくも尋ぬれ」

と、まだきにもと口固（かた）めたまふを、幼き心地にも、はらからは多かれど、この君の容貌をば似るものなしと思ひしみたりしに、亡（う）せたまひにけりと聞きて、いと悲しと思ひわたるに、かくのたまへば、うれしきにも涙の落つるを、恥づかしと思ひて、小君「を、を」と荒らかに聞こえゐたり。

7. monaĥino legas la leteron

Al la domo en *Vono* frumatene atingis la mesaĝo de la *soŭduo*, dirante:

> Mi estas certa, ke tien venis Frateto kiel mesaĝisto de la sinjoro Dajŝaŭo hieraŭ-nokte. Mi aŭskultis de li la resumon de la historio, kaj perdis mian memfidon, kaj fariĝis senkvieta. Bonvolu sciigi al la princino mian cirkonstancon. Morale mi devas tuj veni kaj konsili multajn aferojn, sed ne povas. Mi vizitos vin post hodiaŭ aŭ morgaŭ.

La monaĥino legis ĝin kaj supriziĝis, kio grava okazis. Ŝi venis kaj transdonis la leteron al Flosboato. Tuj ŝi ruĝiĝis je la vangoj kaj havis angoron, timante, se okazis ia famo pri ŝi, kaj ĉagreniĝis, kiel respondi al ties suspekto, ke ŝi kaŝas ian sekreton. Do ŝi restis senvorta. (daŭrigota)

7

かしこには、まだつとめて、僧都の御もとより、

> 昨夜（よべ）、大将殿の御使にて、小君（こぎみ）や参うでたまへりし。事の心承りしに、あぢきなく、かへりて臆しはべりてなむ、と姫君に聞こえたまへ。みづから聞こえさすべきことも多かれど、今日明日過ぐしてさぶらふべし

と書きたまへり。これは何ごとぞ、と尼君驚きて、こなたへもて渡りて見せたてまつりたまへば、面（おもて）うち赤みて、ものの聞こえのあるにやと苦しう、もの隠ししけると恨みられんを思ひつづくるに、答（いら）へむ方なくてゐたまへるに、

（続く）

Kajero *Libervola*

Rakonto pri Veneno kaj Verko (2)

TAKEMORI Hirotosi (Nara)

毒は古来より人類と共にあり、殺人・自殺での使用は、推理小説などにも取り上げられてきた。作品と毒を巡る物語。(ヒ素)

En La Movado N-ro 868 junio 2023 mi traktis pri la difino de veneno kaj rakontis pri Makula konio. Ĉi-foje mi rakontas pri arseno.

Arseniko

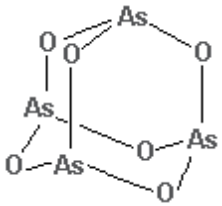


Fig.1 Struktura Formulo[1)] de Arseniko (https://eo.wikipedia.org/wiki/Arseniko)

Arseno ŝajnas esti la plej ofte uzata metodo de venenado en rakontoj kaj realaj kazoj. Arseno-kombinaĵo estas ĝenerale nomita simple arseno, sed la vera identeco de la veneno estas diarsenika trioksido. Struktura formulo estas montrita en Fig.1 kaj kemia formulo[2)] estas As_2O_3. Ĉi tiu kombinaĵo estas facile solvebla en akvo kaj estas sengusta kaj senodora.

La pli ofta arsenik-porta mineralo konsistas el fero, arseno kaj sulfuro (kemia formulo FeAsS). Brulado laŭ certa maniero donas diarsenikan trioksidon. La kialo, ke tia danĝera kunmetaĵo estas farita, estas por uzi ĝin kiel ratmortigilo, insektmortigilo, kontraŭputraĵo ktp. Kaj metala arseno estas aldonita al kupro kaj aliaj materialoj por krei korodimunajn alojojn. Nuntempe, altpura metala arseno estas nemalhavebla kiel unu el gravaj materialoj por ruĝaj lum-elsendantaj elementoj en LEDoj (Lum-eligantaj diodoj) kaj duonkondukto-laseroj.

Sengusta kaj senodora arsenik-kunmetaĵo, ofte estis uzita en venenado en kaj la Okcidento kaj la Oriento. Por malhelpi mortigon per tiu kunmetaĵo, arĝenta manĝilo estis uzita en la Okcidento, kaj arĝentaj manĝbastonetoj estis uzitaj en la Oriento. Arĝentaĵo laŭdire fariĝis nigra, kiam ĝi kontaktis kun manĝaĵo enhavanta arsenon. Tamen ĉi tio estas eraro kaj arĝento kaj arseno ne reagas. Sulfuro estas enhavita kiel malpuraĵo en la procezo de rafinado de arseniko. Tiu ĉi sulfuro reagas kun la arĝento kaj nigrigas la arĝentaĵon. Tial, oni ne povas esti malhelpita, se pura arseno estas miksita en manĝaĵon.

En Japanio, en 1938, pli ol 15 homoj estis mortigitaj, kiam bakitaj rizkukoj miksitaj kun arsenikacido estis erare venditaj en la Gubernio Fukuoka. En 1998, 67 homoj suferis de akuta arsenika veneniĝo en la Gubernio Ŭakajama, ĉar la kareo kaj rizo, kiujn ili manĝis, estis poluitaj per veneno, kaj 4 el ili mortis.

En la detektiva romano "Savo de Sankt-ulino" (japane『聖女の救済』) (2008) verkita de Higashino Keigo, la viro, kiu planis fini sian geedziĝon, estis venenita per arsenika kafo. Mortigo per arseniko estas klasika metodo, sed estas bonege kiel kaj kiam la arseniko estis donita al li.

1) La struktura formulo estas speco de kemia formulo. Ĝi indikas la strukturon (spacan aranĝon), laŭ kiu la atomoj de diversaj elementoj konsistigas unu molekulon de certa kemia kombinaĵo. Konforme al konvencio, hidrogeno kaj karbonatomo estas preterlasitaj.
2) Kemiaj formuloj montras la molekulan konstruon de kemiaj kombinaĵoj. Ekzemple akvo estas tre simpla kombinaĵo. Ĝia formulo estas H_2O. Tio signifas, ke molekulo de akvo havas 2 atomojn da hidrogeno kaj 1 atomon da oksigeno. Oni skribas la kvanton de atomoj kiel indico.

Sonĝoj dum Dek Noktoj (10)

NATUME Sôseki, trad. OKI Keimei

La kvina nokto (daŭrigita)

Tiam la virino eltiris de malantaŭ sia domo blankan ĉevalon alligitan al kverko. Ŝi trifoje karesis la kolharojn kaj facile saltis sur altan dorson de la ĉevalo por rajdi. Ĝi estis sensela kaj sen piedingoj. Kiam ŝi batis ĝian dikan ventron per siaj longaj blankaj piedoj, ĝi ekkuris per ekstrema rapideco. Fora ĉielo ŝajne lumiĝetis, ĉar iu aldonis brullignojn al la ferkorboj. La ĉevalo fluge alkuris al la lumaĵo en la mallumo, eligante spirojn el siaj naztruoj kvazaŭ du fajrajn kolonetojn. Malgraŭ tio, la virino senĉese piedbatis la ventron de la ĉevalo per siaj maldikaj kruroj. Ĝi estis fluge alkuranta al la loko tiel rapide, kiel sonoj de frapadoj per la hufoj sur la tero eĥis en la aero. En la mallumo, ŝia hararo kiel maniko lasis spuron post si en la aero. Malgraŭ tia rapideco ŝi ankoraŭ ne povis atingi la lokon de la ferkorbo.

Tiam, de apud tute malluma vojo abrupte aŭdiĝis kokerikoj de koko. Tio igis ŝin streĉi sian korpon dorsen kaj multe klopodis por haltigi per la manoj la kondukrimenojn moviĝi por ke la kapo de la ĉevalo plu ne ŝovu antaŭen. La ĉevalo stampis firman rokon per la hufoj de siaj antaŭaj kruroj.

La koko refoje kokerikis unu fojon.

La virino krietis kaj unufoje malstreĉis la streĉitan kondukrimenon. La ĉevalo falis sur siajn ambaŭ genuojn de la antaŭaj kruroj kaj klinis sin antaŭen kune kun la rajdanto. Sub la roko estis riverprofundaĵo.

La hufsignoj ankoraŭ restas sur la roko eĉ nun. Tiu, kiu imitis kokerikadon de koko, estis la demono Amanojaku(Amanoĵaku)[1]. Dum la tempo, kiam la hufsignoj ankoraŭ restas sur la roko, ĝi estas mia malamiko.

夢十夜 (10)

夏目 漱石

第五夜（承前）

この時女は、裏の楢 (なら) の木に繋 (つな) いである、白い馬を引き出した。鬣 (たてがみ) を三度撫 (な) でて高い背にひらりと飛び乗った。鞍 (くら) もない鐙 (あぶみ) もない裸馬 (はだかうま) であった。長く白い足で、太腹 (ふとばら) を蹴 (け) ると、馬はいっさんに駆 (か) け出した。誰かが篝りを継 (つ) ぎ足 (た) したので、遠くの空が薄明るく見える。馬はこの明るいものを目懸 (めが) けて闇の中を飛んで来る。鼻から火の柱のような息を二本出して飛んで来る。それでも女は細い足でしきりなしに馬の腹を蹴る (け) っている。馬は蹄 (ひづめ) の音が宙で鳴るほど早く飛んで来る。女の髪は吹流しのように闇 (やみ) の中に尾を曳 (ひ) いた。それでもまだ篝 (かがり) のある所まで来られない。

すると真闇 (まっくら) な道の傍 (はた) で、たちまちこけこっこうという鶏の声がした。女は身を空様 (そらざま) に、両手に握った手綱 (たづな) をうんと控 (ひか) えた。馬は前足の蹄 (ひづめ) を堅い岩の上に発矢 (はっし) と刻 (きざ) み込んだ。

こけこっこうと鶏 (にわとり) がまた一声 (ひとこえ) 鳴いた。

女はあっと云って、緊 (し) めた手綱を一度に緩 (ゆる) めた。馬は諸膝 (もろひざ) を折る。乗った人と共に真向 (まとも) へ前へのめった。岩の下は深い淵 (ふち) であった。

蹄の跡 (あと) はいまだに岩の上に残っている。鶏の鳴く真似 (まね) をしたものは天探女 (あまのじゃく) である。この蹄の痕 (あと) の岩に刻みつけられている間、天探女は自分の敵 (かたき) である。

Rimarkoj (La kvina nokto):

1) la demono Amanojaku(Amanoĵaku, 天探女): Ĝi estas unu el japanaj demonoj.

「婦唱夫随」の綿貫健一郎さん

渡辺 克義（新潟県）

私たちの大切な仲間、綿貫健一郎さん（1959.7.17.～2023.7.28.）が骨髄異形成症候群に脳出血を併発し、還らぬ人となった。衷心より哀悼の意を表したい。

綿貫さんは一卵性双生児として東京都で出生。弟の清一郎さんはいわゆる“撮り鉄”だったが、14歳の時に事故に遭い落命している。綿貫さんは1986年に上智大学文学部英文学科を卒業後（大学生活が通常より長いのは、在学中のフィンランド留学などのため）、専門商社の和光交易に入社。本人曰く、「大手商社を希望すれども、どこも年齢制限のため、門前払い。和光は自分を“拾ってくれた”のだ」と。1987年より、同社のワルシャワ駐在事務所の勤務となる。

商社マンにとって自動車運転免許は不可欠であるが、当時綿貫さんはこれを取得しておらず、現地での教習所通いとなった。私はと言えば、当時ワルシャワ大学に留学中で、時間だけは潤沢にあったことから、少し前からその同じ教習所に通っていた。私たちは奇（く）しくも同じインストラクターから指導を受けていたにもかかわらず、面識はなかった。

私は1986年から1990年まで留学していた。1988年秋に一時帰国した折、初めてJEI（日本エスペラント学会、現協会）を訪れている。エスペラント（以下、Eと略記）は1979年に一度学んだことがあったが、この言語の実用性に疑念をもち、学習をやめていた。しかし、なぜか諦め切れない思いを感じており（実際、前年夏にワルシャワで開催された第72回世界E大会に無登録のままいくつかの催し物に顔を出していた。また、会場周辺で知り合った熊本県のE-istoの原田作さんを自宅に招き、Eの魅力について語ってもらっている）、このことがJEIに私の足を運ばせたのだった。職員（忍岡守隆さん、北川久さん）からEの可能性などについて軽いレクチャーを受けていると、ふと話が私の留学のことに及んだ。その時、「ワルシャワにいる綿貫さんはE-istoなんですよ」と聞かされ、驚くとともに、ポーランドに戻ったら、ぜひ一度本人から話を聞かせていただきたいと思った。

年が明けた1989年の1月14日午前に綿貫さん宅に電話を入れると、同日の午後3時に来るようにと言われた。その場で、後に夫人となるアレクサンドラ・クジミチさんを紹介された。私はEの有用性について尋ねるつもりだったのだが、その種の問いかけは不要だった。目の前の二人の会話がEであり、コミュニケーションのツールとして機能することを立証していたからである。これが、私がEの再入門を決めた瞬間であり、この日が「E記念日」となった。別れ際、綿貫さんからEugenia Szczyglińska, Lernu esperanton, Varsovio, 1987を贈られた。私はこのテクストを2日で仕上げることになる。

2005年 綿貫夫妻、筆者

綿貫さんとアレクサンドラさんが結婚したのは、1989年12月26日だった。edzperantoの好例である。私は証人として文書に署名した。結婚式・披露宴の招待客が豪華だった。1960年代に青年E運動の旗手として名を馳せ、後にポーランドに渡った“レジェンド”松本照男さん、UEA副会長にまでなったポーランド・E界の重鎮ロマン・ドブジンスキさんなどがいた。

綿貫さんは趣味の人だった。そのひとつがダート・ランで、荒れた道を好んで走行した。彼はこの方面で独自の人脈を築いていた。しかし最大の“趣味”はEであった。E-istoになったのはフィンランド留学中の1982年秋である。動機は、東欧に関心があり、Eそれ自体（並びにその中立性）にも惹かれたからだった。帰国後、上智大学のRondo Harmoniaに参加した。綿貫さんがE入門時に使用したテクストについては特定できていないが、Montagu C. Butler, Step by Step in Esperanto, 8th Edition, 1979だったのではないかと推察される。わが国で定番とも言える大島義夫『エスペラント四週間』（大学書林）はまったく使っていなかったことは確かである。1980年代前半のLa Revuo Orientaを捲（めく）ると、日韓合同Eセミナーに参加するなど、積極的に活動していたことがわかる。そんな綿貫さんだが、1980年代後半以降、Eには以前同様強い愛着を感じながらも、「運動」とは距離を置き、いわゆるRaŭmismoに与（くみ）するようになる。E研

究やE翻訳に向かうこともなかった。

マンガも綿貫さんの大事な趣味で、その対象は少年・少女漫画の違いを問わず、だった。1990年代の大半を日本で過ごした後、1999年にポーランドで日本マンガ配給会社「和猫」を共同設立する。

綿貫さんの最大の愛の対象はアレクサンドラ夫人だった。彼は彼女が好きでたまらなかった。綿貫さんが表舞台に現れることはほとんどなかったが、“婦唱夫随”で日本E大会などにしばしば参加した。夫妻は全国に知り合いがおり、旧交を温めるのだった。

綿貫さんは極度に礼節を重んじる人だった。私との関係は30年以上になるのに、日本語で話す時、決してぞんざいな口調になることがなかった。同学年の私に敬語を使って話しかけてくるのだが、しかもそれが異常に丁寧だった。例えば、私相手に「おっしゃる」を用いるのである。彼は私が「綿貫くん」と呼びかけることすら許してくれなかった。もうひとつ綿貫さんの話し方で特徴的だったのは、1人称複数で「我々」を用いることだった。学生運動の残滓かと思わせる表現だが、もちろんそれとは無関係である（たぶん...）。

綿貫さんは美食家でもあった。とくにデザート類を好んだ。ムースを口にし、“Bongusta! Mia lango estas honesta.”と静かに話す時の彼の表情が忘れられない。

綿貫さんにまつわる想い出はほかにも数多いが、紙幅の関係でそろそろ筆を擱（お）くこととする。現在私は闘病中で、遠からずあちらの世界の住民になることが避けられない。だから、綿貫さんにはこう呼びかけ、追悼の言葉を締め括（くく）りたい。

Ĝis la, Watanuki-san!

追記：本稿をまとめるにあたりアレクサンドラさん、臼井裕之さんから多くのご教示を賜った。記して謝意を表する次第である。

追悼

木村英二さんの思い出

木元 靖浩（兵庫県）

神戸エスペラント会（KES）、当時のRondo Kunfluеの記録、A5版ノートを厚さ45mm程度に綴った本を木村さんが遺した。そこに1973年7月6日、講習会が終わり次の人が入会する旨の記載があり、その5名の内の一人に木村さんの名前がある。

さて、この年は忙しい年であり、第52回関西大会が6月2-3日に芦屋市民会館であり、準備に当たった。字の上手（うま）いのが見当たらず、発泡スチロールを切って立体文字として横看板にした。この作業を木村さんと一緒に、私がやや先輩風をふかしながら、芦屋川を眺めながら行った記憶がある。また、その綴り本には、亀岡で日本大会と合宿があり参加者の中に木村さんの名前がある。JEIの記録をネットで見ると、8月11-12日の、これは第60回の日本大会であり、13日には大本（EPA）の50周年記念行事、そして合宿は、KLEGの記録を見ると第5回Friska Lernejo（以下FL）14-17日（組織委員長西尾務）とある。因みに日本大会には不在参加を含め8名、FLには11名が神戸より参加している。盛りだくさんな行事のある年であった。

即ち、1973年は、木村英二さんのエスペラント界へのデビューの年であった。

私の（気まぐれ）日記に次の記載を見つけた。「1980年3月13日に木村さんから連絡があり、イネケ・エンメルカンプが3月25日に来日。神戸に29-30日来る。」東京の行事に4月5-6日出席との連絡があり歓迎会をしたとの事。この客人の名前は思い出したが、それ以外は思い出せない。木村さんは当時、兵庫県衛生研究所に勤めていたから、その関係の人で、仕事で来日、偶然エスペラントもやっていた人かなと思う。日本で各種学会の総会や研究発表があり、それに参加するために来日、ついでに地元エスペラント会にも顔を出してみようとすることはちょくちょくある。

木村さんは、1982年3月10日学位取得、医学博士（博士論文「風疹の疫学的研究」）。1987年、兵庫県衛生研究所（現、兵庫県立健康科学研究所）時代、日本で最初のエイズ患者の判定をした。この頃、木村さんと私はKESで役をしていたのか、木村さんの職場に出向き打ち合わせや、原稿の清書をしてもらったりしていた。いろんな病気の、気持ちの悪い写真の入った資料を見せてもらったこともある。「謹呈」と表書きした博士論文の冊子をこの頃もらった。これらのお付き合いを通じて感じたことは、木村さんは意志の強い、曲がったことの嫌いな正義感の強い人である。「百万人といえども我行か

ん」「義見てせざるは勇なきなり」の人だったと思う。

もらった博士論文はもう手元にないが、うっすら覚えていた題名からネット検索したら題名と日付が出てきた。門外漢の私に「謹呈」されてもと思ったが、おかげで正確にここに記すことができた。

私は、仕事の関係で約 23 年間神戸を離れ、以降木村さんには会っていない。記憶の中の木村さんは精気にあふれた若々しいままである。息子さんから死去を知らされ、お家を訪れ、お会いしたが、記憶の木村さんは息子さんより若いままである。ご冥福をお祈りします。

（神戸エスペラント会 “Senlimo” 誌より転載）

追悼

中道光子さんの思い出

木元 靖浩（兵庫県）

じじいの私は男の平均寿命から言えば、余命あと 10 年。しかし、光子さんと出会ったのはまだ、自分（達）がじじいになる筈がないと思っていた若い頃。エスペラント界は若い男女の交際の場と言って良いような時代であった。「神戸エスペラント協会」時代にエスペラント界に入り居ついてしまった、大げさに言えば KES の Fondintoj の山本登美子さん、沖恵明さんあたりが書くのが適切である。が、私、建設業に就職し、エスペラント会には欠席しがちな、転職して転勤になり奈良方面に一旦移住し、U ターンした、限られた一面しか知らない、それでもいまだにエスペラント会に居ついている Fondintoj の一人と言えるであろう、この私が中道光子さんの思い出を語ってみたい。

あの頃、我が KES が Rondo Kunflue と称していた頃、エスペラント会にダンス教室オーナーが入会して、空いている時間帯なら教室でダンスを教えるよとなった。光子さんも、中道民広さんも、そして他にも若い男女（いや、老若男女）が参加していた。あの頃はハイキングだとか、淡路島に（木元の）ゴムボートを持って遠足だとか、よく遊んだ。そして、「ロンド内結婚」。私の（気まぐれ）日記に 1971 年 10 月 24 日に光子さんと中道民広さんが結婚する旨、7 月 6 日週例会の輪読が終わった頃を見計らい、私から発表。そして「拍手」とある。あの頃、「エスペラント内結婚」がちらほらあり、大阪の女の子が東京に結婚して行ったとか、日本の女の子が欧米に結婚して行ったとか、その逆とか。そのような話題のあった時代である。

さて、壮年となってからの光子さん。一時、KLEG 事務所の当直も担った。事務所電話の不在着信時の留守番電話への案内も光子さんの声である。また、地元では民生委員も引き受け、老人ホームへの慰問にも出かけていた。そのため「南京玉すだれ」をマスター。衣装もそろえて、2011 年の第 59 回関西エスペラント大会（神戸）の際はバンケードでその芸を披露してくれた。

病魔に襲われ 2023 年 6 月 27 日、間質性肺炎で死去。77 歳。1970 年より（現）神戸エスペラント会会員。記憶の中の光子さんはよく発言する、明るく朗らかな若い女性のままである。ご冥福をお祈りします。

（神戸エスペラント会 “Senlimo” 誌より転載）

kultura heredaĵo
tradukita al Esperanto

花のいのちはみじかくて　Ne longe belas floro

tradukis SIMATANI Takesi

生きてゐる幸福（しあはせ）は
波間の鴎のごとく
漂渺（ひょうびょう）とたゞよひ
生きてゐる幸福（こうふく）は
あなたも知ってゐる　私もよく知ってゐる
花のいのちはみじかくて
苦しきことのみ多かれど
風も吹くなり　雲も光るなり。

（林 芙美子 1903 ～ 1951）

Feliĉo vivi senfine drivas
simile al mevaro　sur ondoj trans la maro
tro vasta sen komparo.
Feliĉon vivi dekomence konas
Certe bone ankaŭ vi,　tre tre bone ankaŭ mi.
Ne longe belas floro.　Kaj poste restas
Sufero kaj doloro.　Sed tamen estas
Vento freŝe facila,　nubo blanke rebrila.

(Hajaŝi Humiko)

Margaret Zaleski-Zamenhof 来日取り止め

9月に行われる EPA（エスペラント普及会）創立100周年記念行事にザメンホフの曾孫 Margaret Zaleski-Zamenhof さんと息子さんが参加の予定だったが、来日できなくなった。Margaret さんの記念講演自体は、オンラインで9月17日（日）16時から実施される。また、Katalin Kováts さんは、予定通り来日の上、EPA 創立100周年記念行事に参加する。もし、Margaret さんの来日キャンセルに伴い EPA 創立100周年記念行事への参加を取り止める場合には、参加費の返金に応じるので申し出てください、とのこと。 ［←奥脇 俊臣］

枚方エスペラント会で、たこやきパーティ

7月15日（土）オーストラリア在住の会員 J. Marc Schmidt さんが数年ぶりに来日。例会場近くの「三代目たくちゃん」(枚方市) で、11時半から歓迎会をおこなった。会友を含め合計5名が参加。安くて美味しいたこやきを食べながらお互いの近況報告で懇談した。 ［←堀田 裕彦］

第34回愛知サマーセミナー

名古屋エスペラントセンターは、前年に引き続き第34回愛知サマーセミナー（7月15日～17日）に参加、今回も講座「国際語エスペラント」を提供した (17日（月・祝）1限目9時半～10時50分、名古屋大谷高等学校)。講師は昨年同様小川博仁。高校生6人、大学生1人、一般3人が受講。名古屋エスペラントセンターからは5人 (講師含む)。講義は、エスペラント語の背景と語学的な話題に焦点を当てたものだった。 ［←堀田 裕彦］

宇治城陽エスペラント会運営会議

7月23日 (日) 南宇治コミセンで運営会議を開催した。内容は、今年のザメンホフ祭は11月26日 (日) 13時からエスペラント会館（京都市下京区）で行う、「チンチン電車の詩」の翻訳進行状況について、など。 ［←笹田 保治］

はりまエスペラント会報告

7月27日（木）13時半から第71回関西大会の反省会を行った。記録の動画と写真を見ながら、軽食を共に話し合った。

第25回ひめじ国際交流フェステバル「集まれ！姫路の国際交流」に参加予定。10月29日 (日) 10時～15時、姫路城南大手前公園にてテント展示を行う。主に、第71回関西エスペラント大会の報告を中心にパネル展示を行う予定。 ［←多田 龍二］

西永篤史さん世界大会で表彰

世界エスペラント大会の閉会式で、西永篤史さんが KAOEM（Komisiono pri Azia-Oceania Esperanto-Movado）の第10回アジアオセアニア大会（釜山）を成功させたことで表彰された。 ［←北川 郁子］

8月の土曜エスペラント会

8月もオンラインで12日に開催された。出席7人 (内、海外から1人)。2つの大きなテーマについてじっくり話し合った。一つ目は人工知能（AI）。「実際の孔雀と AI 孔雀」と題するパワーポイント発表を聴き、マイクロソフト社の AI ベースのイメージクリエーターが創った画像の品質の高さに驚いた。文章生成機としての ChatGPT についての報告もあり、これらの技術がもたらす社会的影響について一緒に考えた。二つ目はイタリアのトリノで開催された世界大会（UK）。今年の UK には3人がリアル参加していて、素晴らしい写真と興味深い話で皆を楽しませてくれた。

土曜エスペラント会は、原則毎月第2土曜日に開催。連絡先：山川修一 <shu@gol.com> ［←山川 修一］

トリノの世界エスペラント大会が YouTube の UEAviva で視聴できます

Arta Vespero：
https://www.youtube.com/live/pFY95HCoDhM?feature=share

閉会式：
https://www.youtube.com/live/b8cL2Yk7E-Y?feature=share

［←北川 郁子］

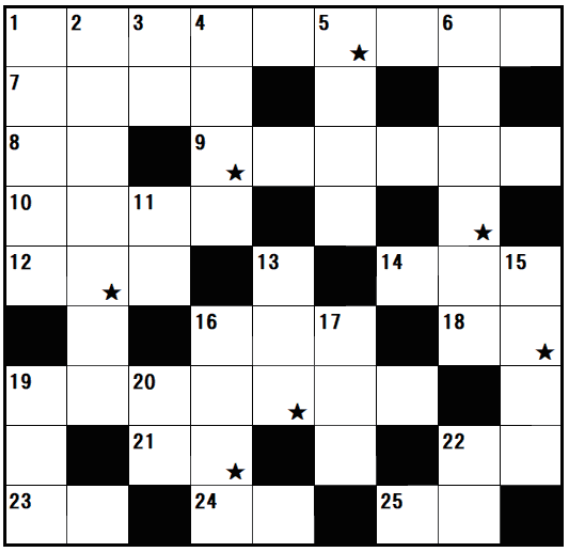
Vortkruca enigmo

Anonimulo

Vicigu adekvatan 7 literojn trovitajn en la kvardratetoj kun stelo. Tiam vi akiros unu altiraĵon en la 71-a KEK (Kongreso de Esperantistoj en Kansajo, en Himeĵi, 2023).

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de oktobro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: multaj vortoj estas sen finaĵo, sed vortoj kun (f) portas finaĵon.



Horizontale: 1. lia voĉo estis ～a en la fonografo; 7. la ～o Meiĝi komenciĝis je la jaro 1868; 8. pronomo de la tria persono en singularo; 9. konsistanta el unu sola elemento; (f) 10. objekto de penso; (f) 12. la prezidanto ～ preparas projekton; 14. ～o: kolora likvaĵo por skribi; 16. Konsulti la sorton per ～o; 18. mi devas ～ decidi, ĉar vi tiel volas; 19. ～o: simpla civitano; 21. stariĝi= ～stari; 22. rilatigi ～n al ～ ; 23. veturi ～ Parizo ĝis Berlino; 24. Pronomo de la dua persono; 25. tri estas du～o de ses.

Vertikale: 1. ～o: politika sistemo, laŭ kiu estas regata iu ŝtato; 2. dum la lasta tempo, ni estis maltrankvilaj pri ～o; 3. ～o: Ludo sur tabulo kun 361 krucpunktoj; 4. la nomo de la litero “x”; (f) 5. la Grenviĉa Meza ～o; 6. ～o: granda insulo en la norda Atlantiko; 11. sufikso, montranta ĝenerale inklinon al io; 13. mi ～as diri al vi la veron; 15. la homa ～ estas dividita je du paroj da kavoj. (f) 16. ～a: kvalifikas unu el la tri statoj de la materio; 17. ～ o: konstruaĵo kies alteco estas granda; 19. Leono ～as al neniu. 20. Interjekcio. Ho ～ !; 22. bov～o, kok～o, kat～o.

La solvo al la aŭgusta enigmo: SOMERO

La ĝustan solvon donis 10 legantoj:

CA、
Sayuri、
TADA、
島津 泰子、
Grebo、
平井 倭佐子、
本田 照美、
松川 まきこ、
にし のりこ、
濱田 國貞

Z	I	N	G	I	B	R	■	M
O	N	■	A	Ĝ	■	O	P	I
O	D	O	R	■	O	M	A	R
L	O	■	D	O	M	A	Ĝ	■
O	N	I	■	K	O	N	■	A
G	E	N	E	Z	■	T	E	M
■	Z	O	■	A	G	I	T	■
Ĉ	I	■	I	L	■	K	■	I
U	■	V	E	■	P	A	S	T

Kurantaj Vortoj

歴史の転換点 (Zeitenwende)　turno historia
偽旗作戦　atako sub falsa flago
段ボールドローン　kartona droneo

楽しい作文教室（146）成績

13人の方から応募がありました。( ) 内は留意事項です。

うん、良いね： ヒー坊、Ivajo(③ disigi の目的語は？)、Lumo, CA(① ŝanĝix)、yosie、ikona(② opozitio)。

良いね： Eiko(③ ig は他動詞化)、はるちゃん (① asembleĵon ②対格 ③ reciprokajn)、Haveno (② devas ③ fariĝis?)、Celejo(① registrion ④ sia, kuniĝita)、Drako(③ konsenton)、Jasuko、brilo(① triki-en ④ enirita)。

Mikspoto （当欄は敬称略）

★7月28日付『The Washington Post』ネット版に「Now's the time to read Esperanto literature — in English translation」と題し英文でウクライナのエスペラント詩人エロシェンコを紹介。

https://www.washingtonpost.com/books/2023/07/28/esperanto-literature-eroshenko-fenikso/ ［←後藤 斉］

★7月30日付『毎日新聞』の「味わう物語」欄に「盲目の詩人ゆかり　新宿・中村屋の『ボルシチ』」と題する記事。ボルシチを日本に伝えたエロシェンコは「相馬夫妻が主催した『中村屋サロン』に集った多くの文化人や芸術家と交流し、日本語やエスペラント語で詩や童話を発表した」と。［←染川 隆俊］

★「ÖNB-ANNO - La Revuo Orienta」に日本エスペラント協会機関誌のアーカイブ。

https://anno.onb.ac.at/cgi-content/anno-plus?aid=e2e

★テレビでヤクルトのコマーシャルが放映された。「ヤクルト」がエスペラントからとった名前で字幕で「1887年、ポーランド人のザメンホフという人が、一種の世界共通語として考案した言語」と説明があった。YouTubeで「ヤクルト今昔物語 第二話」で検索すれば動画を見ることができる。

［←江川 治邦、メーリングリスト FLES より］

楽しい作文教室12月号課題（10月20日締切）

①新しい小学校は丘の向こうに建てられた。
②校庭の用地はまだ造成中だ。
③丘のこちら側では道路工事をしている。
④彼はがけ道を上って畑の間の道を進む。
（ヒント）用地 tereno、険しい kruta。flanko を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先：
［郵送］〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛
［電子メール］c_tak@esperanto.ne.jp
（件名に「作文」の文字を入れてください）
添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

★ATLUSのスタジオ・ゼロが制作を発表していた完全新作ファンタジーRPG『メタファー：リファンタジオ』は、Xbox Series X|S、Windowsで、2024年に発売予定。ゲーム内で表示される架空文字はエスペラントに対応しているらしいが「解読」は容易ではない。［←後藤 斉］

★YouTubeにエスペラントを習い、金儲けする露店商を題材とした漫画（https://www.youtube.com/watch?v=dmV7mqFrS8）。Cezaro Rossettiの往年の人気小説 "Kredu min, Sinjorino!" もエスペランティストの香具師（やし）の話。［←金子 陽子］

★太田哲男『回想録 わが師たち 藤田省三・古在由重・高杉一郎』（同時代社、2,200円＋税）に「高杉一郎とエスペラント」という項目。［←後藤 斉］

★黒薔薇アリザさんと北川郁子JEI理事長のインタビューを「株式会社〆」が公開した。

https://note-infomart.jp/n/n2f857a3c098a ［←北川 郁子］

出版情報

Rakontaro de Genĝi Parto Ⅱ 源氏物語 二

紫式部著、belmonto訳の『源氏物語 一』の続編がAmazonで出版された。https://www.amazon.co.jp/dp/B0CFDNMTMF

第21帖「少女 Dancistinoj」から第33帖「藤裏葉 Visterifolio」までを収録。Kindle電子版（1100円）とペーパーバック（2701円）から選べる。

←特価販売は左のQRコードから。

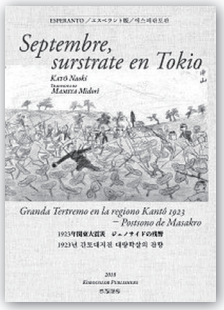
KLEG 事務局だより

★今年もKLEG合同ザメンホフ祭は開催しないことになりましたので、各地で準備をお願いします。

★ザメンホフ祭で購入したい書籍・CDがありましたら、9月末までに事務局にご連絡ください。取り寄せます。

★円安が続いています。UEA等海外から仕入れる図書は、値上がりになる可能性があります。

2023 年 10 月 15 日（毎月 15 日発行）第 872 号　　1966 年（昭和 41 年）8 月 30 日第 3 種郵便物承認 ISSN 0915-6038



★　新刊・新着　★

Lando kiu vekiĝis — Rakontoj el Ukrainio　3500 円

原発事故、独立、政変、そしてロシアの侵攻。激動のウクライナを生きる人。

Kalle Kniivilä が描く。A5 判、169p.

※著者は、日本大会（10 月開催）でウクライナ情勢について公開講演をおこなう。

Mia vivo kun Esperanto　2700 円

出版社 KAVA-PECH を主宰する Petr Chrdle がエスペラントともに歩んだ半生を回想。親交のあった栗栖継を語る文章も。A5 判、251p.

Raportoj el Japanio 26　1800 円

堀泰雄の「報告」最新刊。ウクライナ情勢をめぐる「世界の声」、フクシマの報告、文芸コンクール入賞作品など多彩な内容。A5 判、288p.

Esperanto por mi 6　500 円

画家ヘルガが描いた佐々木照央、冨田成美、Julian Modest ら 16 人のエスペランチストの肖像とエッセー。A4 判、16p.

※ 2 ～ 5 も在庫あり（各 500 円）。

Bluaj neĝoj　1900 円

抑圧的な体制下、一家はシベリアの収容所に送られ、少年がただ一人生き残る。著者 Piotr Bednarski の体験を踏まえた作品。A5 判、125p.

★　Kalle Kniivilä のルポルタージュ　★

Homoj de Putin［第2版］　2100 円

プーチン体制下のロシアに暮らす人びとの肉声。

Idoj de la imperio　2300 円

バルト三国に生きるロシア人の姿を描く。

La malamiko de Putin　2200 円

プーチンの政敵ナワリヌイの実像に迫る。

★　関東大震災から 100 年　★

Septembre, surstrate en Tokio　2200 円

関東大震災時の朝鮮人虐殺を描いた加藤直樹のノンフィクション『九月、東京の路上で』を間宮緑が翻訳。現代に残響する忌まわしい声に抗う。

★　世界へ伝える－堀泰雄の「報告」　★

Raportoj el Japanio 23　1300 円

Raportoj el Japanio 24　1800 円

Raportoj el Japanio 25　1500 円

3・11 以降毎年の状況を丹念にまとめた「報告」。

※ Raportoj 1~22 も在庫あり（1200 ～ 2200 円）

★　再入荷（価格改定）　★

Kumeŭaŭa　900 円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート

★ 9月号 Kajero libervola の表現を一部訂正します: p.8 左下から 12 行目 suprenirado de rivereto perboate → veturado per boato sur kanalo。

（相川 節子）

編集部宛連絡・投稿は<lamovado@gmail.com> へ

発　行　所：ラ・モバード社　編集：相川 節子　発行人：染川 隆俊　定価280 円　送料63 円　1 年3800 円　送料共
本　　局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内　561-0802 豊中市曽根東町1-11-46-204
電話（06）6841-1928　ファクス専用（06）6841-1955　電子メール：esperanto@kleg.org
振替口座 00960-1-60436「一般社団法人 関西エスペラント連盟」　ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内　859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド 2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352
中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内　763-0063 香川県丸亀市新浜町 2-4-18 小阪清行方　電話 (0877) 22-4771